

二セ電話詐欺の注意喚起



那珂川支店は、JAが取り組むふれあい活動の一環として、3月4日に開催された「第39回那珂川町走ろう大会」に参加しました。地域の人たちとふれあい、二セ電話詐欺撲滅のPRも行いました。

この大会は、那珂川町や那珂川町教育委員会、一般社団法人那珂川町体育協会が主催。スポーツを通して町民同士が交流を図ることを目的に毎年開かれます。

那珂川支店の職員10名が参加し、二セ電話詐欺防止啓発のTシャツを着用。町内のコースを走りながら、沿道の応援者に二セ電話詐欺の注意を呼び掛けました。参加した職員は「走りきるのは苦しかったです、たくさんの声援を受け、楽しんで活動することができました。これからも様々な機会に二セ電話詐欺撲滅を訴えていきたいです」と話していました。

麦作部会が圃場で生育確認



JA筑紫麦出荷者部会は3月7日、平成30年産管内麦作現地視察研修会を行いました。部会員と福岡普及指導センター、JA担当職員37名が参加。平成30年度全国麦作共励会で、JA全中会長賞に選ばれた農事組合法人三水うまいちの圃場や、前年度の共励会で優秀賞を受賞した圃場など6カ所を視察しました。各生産者が施肥や除草剤など管理内容を説明。参加者からは、排水対策や農薬散布の効果について質問が上がっていました。

麦の生育状況は、播種以降、低温が続いたことで生育はやや遅れていましたが、徹底した管理と2月中旬からの日照時間によって、生育は順調に回復しています。JA営農生活部農産課の担当職員は「優秀な生産者から技術を吸収し、部会員全員が誇れる麦を作ってほしいです」と話していました。

新任渉外職員がバイク訓練



JA筑紫は3月12日、大野城市の南福岡自動車学校で、新任金融渉外職員のバイク運転訓練を行いました。業務中にバイクを使う金融渉外職員の交通事故防止が目的です。職員9名が安全運転講話を受講後、運転姿勢、ギア操作の基礎練習やバランス走行などの実習を行いました。参加者は質問するなど、真剣な様子で教官の指導を受けました。

推進課の八尋正樹課長は「JAでは、役職員全体で交通事故防止に取り組んでいます。この訓練を活かし、日頃から安全運転を心がけてほしいです」と話しました。

新入職員が農作業研修



ＪＡ筑紫では、(株)ＪＡアグリサポート筑紫が栽培管理する畑で、農業への理解を深めることを目的に、平成30年度の新入職員を対象に農作業研修を行いました。新入職員13名が、小松菜やほうれん草、キクイモなどの収穫作業を体験。その後、収穫した野菜を、ハサミや量りを使って出荷用に調整しました。

新入職員は、(株)アグリサポート筑紫職員の指導のもと、慣れない手つきで作業に取り組んでいました。収穫体験をした新入職員は「初めて収穫を行いました。選別するのが難しかったです」と話していました。

新入職員が直売所研修



ＪＡ筑紫は、ＪＡ農産物直売所ゆめ畑4店舗で、平成30年度の新入職員13名を対象に直売所研修を行いました。生産者や利用者との交流を通して、生産者の農産物に対する思い、地元農産物が消費者の手に届く過程を学び、農業への理解を深めることが目的です。

ゆめ畑太宰府店では、店舗スタッフの指導のもと、野菜の袋詰め作業などを体験。作業を終えた野菜を綺麗に店内へ陳列しながら、笑顔で来店客を迎えました。

季節の農産物で自慢の料理作る



ＪＡ筑紫女性部農業関係グループは3月13日に、ＪＡ営農センターで委員会を開き、季節の農産物などを使った手作り料理を持ち寄り、試食会をしました。

グループのメンバー16名が参加し、それぞれが持ち寄った自慢の料理を味わいながら、レシピや味付けのコツなどを情報交換しました。参加者は「大変勉強になりました。教えてもらった料理を家で作ってみたいです」と笑顔で話していました。

出荷最盛期 アスパラガス部会が目合わせ



ＪＡ筑紫アスパラガス部会は3月14日、筑紫野市のＪＡ物流センターで部会定例会を開きました。出荷規格や基準などについて部会員で意見交換し、目合わせを行いました。定例会には、部会員や福岡普及指導センター、ＪＡ全農ふくれん、ＪＡ筑紫担当職員など12名が参加しました。

部会の春芽アスパラガス出荷は2月下旬からスタート。3月中旬に春芽の最盛期を迎え、選果場には1日に平均で約350kgのアスパラガスが出荷されています。ＪＡの担当者は「これから出荷の最盛期を迎えます。管理を徹底し、品質の良いアスパラガスを多く出していきたいと思います」と呼びかけました。

粥占祭 全般判断は「中」



筑紫野市の筑紫神社で3月15日、かゆに生えたかびを見てその年の天候や農作物の豊凶などを占う「粥占祭（かゆうらまつり）」が行われました。かびの生え具合や色で占った結果、総合的に見る全般判断は「中」。また、天候面では雨が「少なし」、稲作の作柄は「中」、麦作の作柄は「中下」と出ました。祭りは毎年行われる伝統行事で、200年以上の歴史があり、市の無形民俗文化財にも指定されています。

占いに使うかゆは、2月15日に行われた「粥納（かゆおさめ）」で神職が炊いたもの。表面を県の旧国名に当たる筑前、筑後、豊前、肥前の四つに分けて本殿の御内陣に1カ月間納めました。取り出したかゆの表面を判断委員が確認しました。

生タケノコ 4月2日から集荷



JA筑紫は3月16日、JA営農センターで平成30年加工用生タケノコ出荷説明会を開きました。職員が集荷日程や集荷規格等、写真入りの資料を配付し説明しました。集荷は、4月2日から始まり、29日まで続く予定。昨年の集荷36tを超える生タケノコの集荷を呼びかけています。

JAは、中山間地の活性化や竹林整備、農業者の農業所得向上を目的に、毎年4月上旬から生タケノコの集荷を行っています。近年は国産タケノコの需要が高まっていることもあり、組合員が積極的に出荷をしています。

説明会では、営農生活部の上野正志部長が「毎年、多くの出荷をいただいています。今年も事故が無いよう安全に注意して作業を行って下さい」と話していました。

ゆめ畑春日店で現地説明会



JA筑紫は、3月19、20日の2日間、ゆめ畑出荷者に対して現地説明会を開きました。出荷のルールを生産者と店舗で統一し、来店者が買い物しやすい店舗を作ることが目的です。

春日店の武末友一郎店長が商品の配置や出荷の仕方などを説明。出荷者は、農産物の出荷時間などを確認しながら店内を見回りました。参加した生産者は「ルールを守り、より多くの商品を出荷できるように頑張りたい」と話していました。

ゆめ畑春日店で内覧会



ＪＡ筑紫は、３月１９日にゆめ畑春日店で内覧会を開きました。ＪＡ理事や出荷者協議会の役員などが参加。春日店の武末友一郎店長が、店内の施設や精肉加工施設、商品陳列棚などを参加者に説明。参加者は、農産物の配置や出荷の仕方など、意見を出しあいました。春日店では、平置きの陳列棚を導入。従来の店舗と比べ、新鮮な農産物をより多く並べることができ、来店者が商品を見やすく、手に取りやすい工夫をしています。

武末店長は「たくさん意見を頂いたので、店舗を運営する中で参考にしていきたいです」と話していました。

片縄支店V2！ 支店だよりコンテスト表彰

ＪＡ筑紫は３月２０日に、平成２９年度支店だよりコンテストの表彰式を行いました。１位の片縄支店、２位の大土居支店、３位の春日南支店の上位３店舗を表彰。片縄支店は、２８年に続いて２年連続の１位です。写真や手書きのイラストが多く、カラフルで見やすいレイアウトが高く評価されました。

ＪＡは、地域やＪＡの情報を掲載した支店だよりを通じて、組合員や地域住民にＪＡをより身近に感じてもらう、地域に親しまれるＪＡを目指すことを目的に、支店だよりを全店舗で発行しています。平成２５年から始まり、今年度で５年目を迎えた取り組みです。

コンテストの審査は「季節感」「レイアウト」「地域の情報発信」「親しみやすさ」の４項目の審査結果と、ＪＡのホームページに掲載している支店だよりの閲覧状況をもとに加点。また、審査員はＪＡの常勤役員や広報委員会委員、ＪＡ福岡中央会や印刷業者などの有識者が務めました。

審査員を務めた企画管理部の井上淳一部長は、「各店舗の担当者が毎月丁寧に作成し、内容も年々レベルアップしています。今後も、地域で話題になるような、より良い支店だよりを発行してほしいです」と話していました。

ゆめ畑春日店がオープンしました！



農産物直売所「ゆめ畑春日店」が３月２３日、春日市にオープンしました！白水組合長は「消費者に、安全で安心な農畜産物を知ってもらうことで、より一層農業への理解を深めてもらいたいです」とＰＲしています。

２３日に記念式典を開き、春日市の井上澄和市長や建設関係者などの来賓や、ＪＡ理事、春日地区評議員が参加。テープカットとくす玉割りなどを行いました。

店頭には、地産地消にこだわった新鮮な野菜や米、加工品などの商品が並びます。開店を心待ちにしていた来店客が、オープンと同時に店内に流れ込み、次々と商品を手に取っていました。来店客は「これまでは別の店舗を利用していました。近くに直売所が出来て嬉しいです」と話していました。

また、春日店には、ゆめ畑５店舗で初めてＪＡ全農ミートフーズが直営する「精肉コーナー」を設置しています。店内の加工場で肉を加工し、商品棚に陳列します。

種ショウガ出荷1400kg



JA筑紫生姜出荷組合は3月28日、筑紫野市の山口倉庫で、種ショウガ1400kgを種苗会社へ出荷しました。出荷組合員と種苗会社社員、農業振興課職員は、今年の種ショウガの出来具合などを確認し、熱心に意見交換しました。

種ショウガは、種苗会社を通して全国に出荷されます。今年は、全体的に病気の発生が少なく、天候にも恵まれたため、品質は良好。種ショウガを確認した種苗会社社員は「規格が揃っていて、品質も良いです」と話していました。

生姜出荷組合員は、「伝統ある山口地区のショウガ栽培を絶やさぬよう、これからも続けていきたいです」と今後の活動に意欲を見せています。

家畜の冥福祈る



JA筑紫は3月28日、畜魂祭をJA本店の畜魂碑前で開きました。JA肥育牛部会員や養鶏農家、関連業者や行政関係者、JA役職員など30名が参列しました。

畜魂祭は、家畜の冥福を祈る式典。筑紫野市阿志岐の圓徳寺の住職が読経をしたあと、JAの白水清博組合長をはじめ、参列者が順に献花し、家畜に感謝の気持ちを込めて供養しました。